

曇雨天に対する農作物の技術対策

平成 27 年 8 月 31 日
 農 業 技 術 課
 総合農業技術センター技術普及部
 果樹試験場技術普及部
 畜産試験場技術普及部

8月下旬以降、曇雨天が続いています。今後10日間ほど同様な天候で推移する可能性が高くなっていますので、農作物の管理に十分注意してください。

北日本と東日本の日照不足に関する全般気象情報 第1号

平成27年8月28日13時30分

北・東日本では、8月12日頃から前線や北東からの湿った気流の影響で太平洋側を中心に曇りや雨の日が多く、日照時間が平年の50%を下回っている所が多くなっています。日照時間の少ない状態は、今後2週間程度は続く見込みです。農作物の管理等に十分注意してください。

1 週間天気予報（8月31日～9月6日）

8月31日11時 山梨県の週間天気予報

日付	1火	2水	3木	4金	5土	6日	7月	
山梨県 府県天気予報へ	曇のち一時雨 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇 	曇時々晴 	曇 	曇一時雨 	
降水確率(%)	10/20/50/40	60	70	30	20	40	50	
信頼度	/	/	C	A	A	B	C	
甲府	最高(°C)	29	30 (27~33)	30 (26~33)	31 (28~34)	28 (25~32)	28 (23~31)	29 (25~32)
	最低(°C)	23	22 (21~24)	23 (22~25)	20 (19~22)	19 (17~21)	19 (18~21)	20 (18~23)
平年値	降水量の合計		最高最低気温					
			最低気温		最高気温			
甲府	平年並 7 - 28mm		21.5 °C		30.8 °C			

2 農作物の技術対策

(1) 果 樹

モモ、スモモはほぼ収穫が終了し、ブドウではデラウェアは終了、巨峰系品種は遅場地域で収穫中、甲斐路系は着色期となっていることから、ブドウを中心に当面の管理を徹底する。

<ブドウ>

- ① 棚面の受光条件改善のため、新梢の誘引の見直しを行う。
- ② 同化養分の浪費を防ぎ、食味を向上させるため、旺盛な新梢を摘心したり、伸びている副梢を2～3枚残して摘心する。ただし、邪魔にならない副梢はそのままにしておく。

- ③べと病の発生が心配されるが、成熟期まで葉を健全に保つため、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。特に、欧州系ブドウでは防除を徹底する。
- ④晩腐病の発生している園では、二次感染を防ぐため、ほ場を巡回し発病果粒は速やかに摘粒し、園外へ持ち出すか、土中に埋める。

<立木果樹>

- ①日照不足により翌年の結果枝の充実不良が心配される。9月は秋季剪定の時期となるため、樹冠内部や園全体が暗い場合は徒長枝の摘心や除去により明るさを保つ。明るさは樹冠内部に30%程度の光が入ることを目安とする。

(2) 野菜・水稻

<野菜>

- ①ナス、トマト、キュウリでは、疫病、べと病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生の防止に努める。
- ②夏秋ナスでは、着色を促進するため密生部の枝を抜いたり、下葉の摘葉を行うとともに、葉面散布や追肥等適正な施肥管理に努め、草勢の維持と促進を図る。
- ③夏秋トマトでは、日照不足により結実が不安定となりやすいため、ホルモン処理により確実に着果させる。
(トマトトーン：150～200倍、ジベレリン10ppmを混用する。)

<水稻>

- ①いもち病の発生がみられるほ場では、治療効果のある粉剤や水和剤等による防除を徹底する。
- ②収穫は、出穂期からの日平均気温の積算温度950～1100℃を目安に、ほ場ごとに黄化した籾の割合(85～90%)を確認し、適期に行う。

(3) 畜産

<飼料作物>

- ①飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。
- ②天候に応じ、迅速に必要な作業が行えるよう、機械の共同利用・共同作業等の体制を整えておくとともに、良質な粗飼料が確保できるよう努める。